

天上の元日

森野 水琴

天上の大みそか。「文豪と語り部を呼べ」と全能の神ゼウスが仰せられた。たちまちのうちに死して天上に召された文豪たちと語り部たちが集まった。

「四月におまえたちを呼び、人間界の言葉が乱れているから何とかせよと言ったのだが、あまり進展がないまま年を越そうとしている。どうするつもりだ。」とゼウスに言われ、天上のトルストイが代表して「力およばず、この有様です。地上に降りて弟子たちの元を回りたいのですが」と泣いて嘆願する。

トルストイには天上の収容所で平和について教えるという役目がある。このところ収容者は増え続け、トルストイは多忙を極めている。そこでゼウスはトルストイの分身たちに地上に降りてもらうことを指示した。

天上の元日。この日だけは天上の全員がゼウスに呼ばれる特別な日である。ゼウスから一年の方針が皆に述べられる日でもある。

今年は何といってもトルストイの分身たちを地上に派遣することが皆の注目を浴びた。

「きょうはトルストイの分身たちの壮行会である」とゼウスが言うと、傍らにいるトルストイが分身しながら地上に降りていく。皆が喝采して送り出す。

地上の人間たちには分身が見えない。だが分身には人間たちが見え、どの国の言葉も理解できる。

地上を何とかしたい 天が願う